

『蒙古襲来絵詞』第2巻 第21紙～第27紙

モンゴル軍に到達した季長は、モンゴルの船に突撃し、敵将と組み合う中、仲間も彼の後に続いて船に乗り込んでいます。季長は自身の部隊を待つ代わりに（彼の部隊は遅れて出発した）、速度のある他の船に乗り込みました。急を要していたことから、鎧をすべて着用せずに出発しました。頭を守るために、季長は足の甲冑を一つ外して代わりの兜として縛りました。ここで、戦闘中にその甲冑が彼の頭から落ちるのが見えます。この場面では、モンゴルの船のデザインや戦術を含む、戦いの写実的な描写を見ることができます。